



雀子集
五



1966
5



1966
5



霍子集卷第五目錄

初冬

亥子

歸齋

寫

少

寫

寫

時叙

寫

本系

埋火

福祥忌月

時

火燒



惠比酒海

拓野

その的

祢樂

冬菊

新和行

会

并身子乃甲

煤拂

佛名

冬梅

年忘

露分

年内書

葉書

新

雀子集卷中

初冬

塙池崎成之

おまよひよひくくろつるやう方ん

塙榮方

まよひのあやふれともみちる月

塙成元

秋のあまのつらさあやふれあまの文

時句

の心飛来

追々よもつうしゆり

年よふ人のこのめらもとられん

瑞成元

相馬のよもつうしゆりのおしえ

心飛

相馬のよもつうしゆりのおしえ

中村心を

これ身よもつうしゆりのおしえ

基代

秋田よもつうしゆりのおしえ

十月のりうきうの田のよもつうしゆり

行寛

なまらわらぬしゆりのおしえ

ひーらきうしゆりのおしえ

くくあいらしき
ようしらすたわ
けらあつうーゆ

あつうーゆ
みかひ日蔭の子集法
ゆきんまらぬ
うすーひて
あつうーゆ

くくあいらしき
あつうーゆ
あつうーゆ

信竹朝芝翁

御
うー

あつうーゆ
あつうーゆ
あつうーゆ
あつうーゆ

らんらん子清あつらふ
してあつらふくち付ゆり
あつらふもあつらふよ
子

田中可重

お目のあつらふれ
なれあつらふ氏
あつらふの件もあつらふ子餅

案

あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ

新着貞純

あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ

瑞成之

あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ
あつらふあつらふあつらふ

本園号室新法所

ひつるなきいぢおゆけれはわい

なね朝月澤

すわいそてうじ人のけよちのん

わらわらみとまぢんふおおひ

おね相きさうくそくめんあて自

落葉よとくわふよわおまもあ

結句よとく日増あわおのねそ

加笑

おのねららふくやね治をれ

正哉

うらまよみよおれれはるま

村山栄吉

ふまよふらも八家あふおのり

塙正守

かえれもわかやうのりよおれ

海老

塚守刑

一年よ二めひ一ねあわうり花

月潭

廻文のこゝ紫の花やうりこゝ

大坂川きま

花あそくふのつらんあれ

あそぶ

日列法後記文

あつらふれあまとなれねれ

塚守紫

あすらふねあまの周よあれねれ

室町吉村

あけ山の本の紫れぬの目よりか

あむねあま

あつらふれあまのあまあま

あつらふれあまのあまあま

よのつゝの糸をわらわす
糸を接もわらわす

和洞院久松

よのつゝの糸をわらわす

塙宗景

川をわらわすも母をわらわす

つらつら

川をわらわすも母をわらわす

塙成之

川をわらわすも母をわらわす

つら

塙正法寺成安

川をわらわすも母をわらわす

塙正法寺成安

川をわらわすも母をわらわす

塙正法寺成安

Small vertical text on the left margin.

近頃より下りて見ゆしやうや梅の香

田中可也

とむらうの香もさうさうさうさうさう

ふりて

ちのちのちのちのちのちのちのちのち

から成次

うらやまの香もさうさうさうさうさう

奥列合津起統

うらやまの香もさうさうさうさうさう

見英

うらやまの香もさうさうさうさうさう

かき

うらやまの香もさうさうさうさうさう

持村三久

うらやまの香もさうさうさうさうさう

若田西成

一 雲のこころのねはらふは

かき

よきこころのねはらふは

藤氏

なごのこころのねはらふは

山田

なごのこころのねはらふは

井宮

なごのこころのねはらふは

貞徳

なごのこころのねはらふは

井村

なごのこころのねはらふは

信列

なごのこころのねはらふは

塚安治

おのゝけのしんがら

大坂川子

おのゝけのしんがら

中村区

おのゝけのしんがら

作加子

おのゝけのしんがら

熊谷信貞

能又竹庵通賢大

よつ

おのゝけのしんがら

田勝長

おのゝけのしんがら

おのゝけのしんがら

おのゝけのしんがら

測よ海より心も一なる
もたのしむる心も佛
しよとせむる心も佛
もたのしむる心も佛
不き不き少れはとわれも佛
まこととせむる心も佛
可也よ下もとたしむる心も佛
とせむる心も佛

心も佛とせむる心も佛
もたのしむる心も佛
もたのしむる心も佛

長田貞實

心も佛とせむる心も佛
もたのしむる心も佛
もたのしむる心も佛
もたのしむる心も佛

坪川尚氏

田嶋持守

嵐より目わくくさくさの心

小山清次

んんんんんんんんんんん

孝茂

きんんんんんんんんんん

正尊

んんんんんんんんんんん

塚安治

ねねねねねねねねねね

塚宗能

ちちちちちちちちちち

塚方由

ちのちのちのちのちのち

橋中清安

ねねねねねねねねねね

本園ちのちのち

ういゝういゝんてんてんてんてんてん

雲の雲法師

雲の雲法師

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲の雲法師

雲の雲法師のういゝういゝんてんてんてん

雲

雲

本傳第六

祐亦新

くわいそくくふらこれ
くわいそく

くわいそくくわいそくくわいそく
くわいそくくわいそくくわいそく

岩火折

端地崎成

くわいそくくわいそくくわいそく

五

くわいそくくわいそくくわいそく
くわいそくくわいそくくわいそく

小成次

くわいそくくわいそくくわいそく

貞純

くわいそくくわいそくくわいそく
くわいそくくわいそくくわいそく

長谷氏

炉の中よまゝにさつゝのたゞさる

塙名永幸

埋火よあつらひららるゝはさるゝ

成

山手

みぎのまのりらるゝさつゝ

塙正幸

白河の雲とちりちりあつた

小山成次

布引乃 澁れ紗やうんら

成氏

字ありやんらせよしけねの下紗

成氏

いけのこのらりらるゝさつゝ

中村正幸

じすひある川の砂りまかふ

なれ新

水とまの砂はうらふ砂れ
水とまの砂のつらさるはなれ
水とまの砂はうらふ砂れ

よ上二四

さうんの仲ふつらさるはなれ

福作忌日

ふ知作忌

けいひつてさうりてさうんらん
開山けん日蓮忌より法華ん
水とまの砂はうらふ砂れ

伏見慰聽

さうりてさうりてさうりてさうりて

大坂川をさうりて

遠くをさうりてさうりてさうりて

銀行新元方

あつ下のみのりつてつるす日さきん

鳴

塙安治

あつ下のみのりつてつるす日さきん

なむね

あつ下のみのりつてつるす日さきん

正業

あつ下のみのりつてつるす日さきん

坪川南氏

あつ下のみのりつてつるす日さきん

塙水之

あつ下のみのりつてつるす日さきん

鳴

東六條法新

あつ下のみのりつてつるす日さきん

おろ

正法寺成安

是れも初序系命にやう

うふさるらんしんしんまのなあき

塙成之

うららのくろくろくろくろくろく

茶村新基氏

うららのくろくろくろくろくろく

其まよのせとららるまものあき

るぢの征美てわてらんつてて

豊後平忠正良

ふたつてまよとららるまものあき

清心

うららのくろくろくろくろくろく

畠田徳也

海の中をめぐらるけんのんまのあき

見笑

池の尻ふし海すらりふりともふふ

泉別格成沈

かろふりうれしちるをらり

見笑

ふし海しりしよふら

急ゆりしりしり

きそんとるふりふりふりふり

清安

くしんふりふりふりふり

吉川意供

ちんうしき戸の義ふりふり

中嬖

武列一之

ひかふりふりふりふりふり

貞守

三平の森にふりてのりぬかたを

橋平三平丸

まりののりたのりひのり

畠田橋長

旅をきくしんじきむかひは橋

橋長

御火焼よりあつたのり人

惠目酒海

貞純

あつたのりあつたのり酒海

よみ人

あつたのりあつたのり酒海

枯井

小橋一平

あつたのりあつたのり酒海

豊田

神系

中村元辰

まうらひのゆきてんりふんりふのわうりふ

自然

お花のまもひこよのわうりふ

神系

の心居き

わうりふのわうりふのわうりふ

場家お

まうらひのゆきてんりふのわうりふ
まうらひのゆきてんりふのわうりふ

中田貞寛

まうらひのゆきてんりふのわうりふ

自然

神系

まうらひ

作元お

んさうのきつゝのりりのきつゝにん

新和

正徳一十年

行はるるも出さず時のんらにん

横正村

清のきつゝのりりのきつゝにん

会
綴子
乃中

日列清書文

のりつゝのりつゝにん

大ありの神ひん

あつゝのりつゝにん

端池の成之

あつゝのりつゝにん

なれぬ月際

ひゆつゝのりつゝにん

あつゝのりつゝにん

あふれてまゝらあうみらあむらん坊
うすく今てまゝらあうみらあむらん坊

自然

うらまうーまゝらあうみらあむらん坊

おま自然

うらまあうみらあむらん坊

懐字お宗信

うらまあうみらあむらん坊

伏見慰齋

うらまあうみらあむらん坊

一念子

うらまあうみらあむらん坊

おま自然

うらまあうみらあむらん坊

懐字お宗信

うらまあうみらあむらん坊

橘中清安

今もいづるわの海のくみ子れ

朝江行寛

あゝいづるうらりてんもくき帯

蝶梯

井鹿

風のさくらおてあめ舟のすけこひ

る列はら

々年をそよみのこいよはなふれん

な杉新巻成

うみくるといふこいれがらりけいこひ

伝心

もと正次

ふれうふ深きすこくくも信伝心

冬梅

守重

早梅のあけくさむらじ次季の如

室町音村

花の兒うきくさむらじ

平井安信

花の兒もくさむらじ

年忌

村山栄房

朝潮の母はくさむらじ

本松新

いとくはもせよ親類のうき

花の

的公居士

花の兒もくさむらじ

大坂徳甫

花の兒もくさむらじ

田中知房

そはふりよ膏丸のしんをたぐらふ

徳名傳貞

そはふりよ膏丸のしんをたぐらふ

堀八丈三治

しんをたぐらふ

なれ朝月

しんをたぐらふ

しんをたぐらふ

橋中三平

しんをたぐらふ

お名季茂

しんをたぐらふ

坪川高氏

しんをたぐらふ

久松

しんをたぐらふ

本田家

いもうつらふきんおのちらぬ

おふ一知

いんいりりふかんと回くお

加笑

針あぬよらふらふらんの

村の栄者

よ下いふらふ際さいの取ひ

仙葉

鬼ころも鉄砲ちくすり

坂波井正村

いりあめ鬼津つうすうらぬり

坂廣之

最方のあふらんのしらんの

年月

釣江種寛

年の月よきとありてありたり古縁子

よみかん

年のうらたの春らつらつとあり

集言

左衛門

いふふ年いらんたりとあり

堀正

古年のうらたの春らつらつとあり

初年のうらたの春らつらつとあり

堀正

やうれり年のうらたの春らつらつとあり

堀正

年と来らつらつとあり

堀正

年のうらたの春らつらつとあり

堀正

雀言てくらく地ふりてはれ

中村正を

ひゆんたさましくして終や年れれ

本村新基氏

年の矢いんぶすとらつたぬ雀言るは

申のさくまふれは沅津月

夜東流去とつふゆんかこ

早いつてゆり

年のさぬひんうよめれなられ

三田村な次

ふてゆくうぬうの矢いんぶ

塚方中

牛のさぬかろく年れとうり

大坂川若子考延

ふのさぬさる日のさぬうれ

塚成元

かみれり年むらぬくも車

張竹新之方

うむおの年のくれゆく月

雑冬

新江行書

ふたまたまゆらねの節事ぬ

塙八丈之治

らふくまていふまていふま

たふらぬ

いふふいふいふいふいふ

伝親

うんはははははははははは

豊後平景正良

あふらふらふらふらふら

武列正久

葉のくまにふらふらふら

ふじあふふ中家書意のじくさるん

三田村を次

あまのささぎをいして生れよらんこころ

月列清美文

いんたんとらんあまのりりりりりり

中村を

我唐やうんらんらんらんらんらんらん

東洞院唐澤氏

読解やうんのらんらんらんらんらん

堀江清成之

吉物の日よらんらんらんらんらんらん

的公居す

うみあふらんらんらんらんらんらん

東六条尚女

神代書れわむらんらんらんらんらん

三十三卷

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the right page of the spread. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, with some characters resembling letters from a non-Latin alphabet, possibly a form of shorthand or a specific dialect. The overall appearance is that of an old, well-used manuscript page.

